

(公財) 米盛誠心育成会だより 第二四号

財団設立二十五周年を迎えて

理事長 米盛庄一郎



平成28年度、当財団は設立25周年を迎えることが出来ました。9月10日には作家林望氏をお招きし「薩摩

スチューデントが見た世界」と題して講演会を開催しました。150年前の江戸時代末期の1865年に薩摩藩が国禁を冒して極秘裏に英国に送り出した15名の留学生と4名の使節団が船旅の途中で西洋文化にふれる度に五感で感じたものを自分の中に取り入れて薩摩だけでなく日本を意識していく様、さらに英国についてからはその技術を必死に学んでいく姿を語っていただきました。また、その後の記念祝賀会においてはこれまでの財団運営にご協力いただいた方々に出席いただき、お祝い及びお礼のお言葉を賜りました。25年の歴史は「設立25年のあゆみ」として出版して皆様にご披露できたことが、何よりの喜びとなりました。

伊勢神宮の式年遷宮は20年ごとに行われ、平成25年に62回式年遷宮は執り行われました。式年遷宮が20年ごとに行われるのは技術的な観点からは建物の技術を伝承するには大工の養成という重要な意味があります。およそ1300年にわたる式年遷宮は大工の技術の伝承によります。10代から20代で見習い大工で経験し、30代から40代で中堅または棟梁として建築に携わる、この繰り返しは1300年にも及ぶ釘をまったく使わない建築技術の伝承となって、現在に引き継がれています。

2年後には明治維新150年を迎え、その原動力であった薩摩からは多くの偉人を輩出しました。その人材は一朝一夕に養われたわけではなく、日本の将来を思う人々が教育にいかにか時間を費用を

けてきたか、また、継続して繰り返してきたかに因ります。当財団も父である前理事長の米盛庄司氏から本年6月に理事長を引き継いで半年が過ぎましたが人口減少と過疎化高齢化また、離島を多く抱える鹿児島県には勉強意欲や研究意欲のありながらハンデを負っている方がいます。奨学金・研究助成金を給付することで、鹿児島、日本の教育・研究の一助となるならば本望であり、今後とも財団の制度を使っていたいただければと思っております。

平成二十七年奨学生修了者の進路

二十八年三月、六名の奨学生が卒業しました。それぞれの進路でな一層、活躍ください。進路先は、次のとおりです。

- ◇高専生(一名) (株) 住まいず
 - ◇大学生(二名) JNC(株)
 - ◇留学生(二名) (株) ナガオカ
- 鹿児島大学大学院
京都大学大学院

平成二十八年年度採用の奨学生

奨学金給付希望者の中から、学校等からの推薦書及び選考委員の面接の結果、新たに四名が決定しました。

- 鹿児島工学院専門学校
- 建築デザイン学科二年二名
- 鹿児島高専都市環境デザイン工学科五年
- 鹿児島大学工学部建築学科四年



財団新役員の方々が選任されました

公益法人制度改革に伴い平成24年4月公益財団として発足から4年経過し、役

員任期の厳格化に伴い、6月開催の定時評議員会終了時で任期満了となった理事、監事、評議員に次の方々を選任され、当日役員会で新たに理事長、評議員会会長も選任されました。

- ◇理事長：米盛庄一郎
- ◇常務理事：米盛司郎
- ◇評議員会長：宇都幸雄

評議員		理事	
氏名	職業	氏名	職業
米盛実郎	大豊運輸(株)代表取締役	米盛司郎	日研高圧平和キドウ(株)代表取締役社長
米盛直樹	米盛建設(株)代表取締役専務	米山兼二郎	(医)清泉クリニック整形外科理事
庭田清和	元 鹿児島県保健福祉部長	大山直幸	鹿児島市立美術館長
久永繁夫	元 鹿児島女子短期大学教授	竹元 明	元 鹿児島商工会議所専務理事
宇都幸雄	(株)創造経営研究所代表取締役	徳重芳久	元 鹿児島市経済局長
富岡忠勝	元 鹿児島県農政部長	藤田晋輔	(株)鹿児島 TLO 取締役
上原昌徳	鹿児島産業貿易(株)取締役社長	米盛庄一郎	米盛建設(株)代表取締役社長
監事			
吉田 稔	吉田稔法律事務所	永吉哲哉	永吉哲男税理士事務所

平成二十八年年度の研究団体助成金が決定

今年度の研究団体への助成金は、次の六団体に決定し、七月十三日鹿児島大学において、米盛理事長から各対象団体代表者へ、助成金目録の贈呈を行いました。

- *「農薬の長期徐放が可能で安価なカプセル型農薬製剤の製造に必要な新規バイオインスパイアード技術の開発」
- (武井孝行准教授)
- *「新規卵白粉末の開発と機能強化に関する研究」



鹿大学長室で贈呈式

米盛誠心育成会の奨学生となって

鹿児島工学院専門学校

建築デザイン学科 瀬戸川正敏

採用通知交付式では米盛理事長や選考委員の方々から激励のお言葉をいただき、これからの学生生活を改めて見直していくかと思われました。特に面接の時や式の日には理事の皆様のお話を聞いていて、自分が鹿児島という素晴らしい土地に住んでいながら全く鹿児島のことについて知らなかったのか、無関心であったのかを知ることが出来ました。

今の私は「郷土鹿児島」についての知識を他県の方に語ることが出来ません。私はこのままでは駄目だと思い、学生生活の集大成である卒業設計のテーマに「観光問題」を取り上げ、鹿児島島の観光を盛り上げる為、鹿児島島の歴史・文化の良さを伝えることのできる建築物を設計しようと

- (環境反応工学・単位操作研究グループ)
- *「南九州や島嶼地域に自生する陸生・水生ホタルの遺伝子多様性解析」
- (加藤太一郎助教)
- *「臭素系難燃剤を含む電子機器プラスチック廃材のリサイクルに関する研究」
- (オルシエク シルビア イザベラ 特任助教)
- *「ホイスラー合金に着目した高効率の熱電変換材料の開発」
- (重田出助教)
- *「カツオに生息する有用微生物の獲得」
- (鹿児島大学応用分子微生物学グループ)

考えています。今年一年かけて鹿児島島の歴史・文化を学んで自分自身の知識として身に付けたいと思います。そのために式終了後にいただいた「かがやけ薩摩」龍馬を超えた男「小松帯刀」という本を今読ませていただいております。とても勉強になることが多いです。また読み終えた後は自分の足で本屋に行き自分の目で選び、郷土鹿児島のことについて描かれている本を購入し、その本を読み、自分の見聞を広げたいとも思っています。そして卒業をする頃までには自分自身の知識として鹿児島島の歴史・文化を他県の方に対して披露出来るようになります。

鹿児島工業高等専門学校

都市環境デザイン工学科 眞田龍也

私は平日も休日もバイトをしていたため勉強がおろそかになっている部分がありました。しかし、今年度から奨学金をいただけるようになり、平日のバイトを減らす事が出来ました。この時間を利用して資格取得、テストへの対策をしっかりとしていきたいと考えています。

今年度は2級土木施工管理技士の資格を取得しようと考えています。その勉強のためのテキストや試験代に奨学金の一部を当てました。

自分は県内のPC橋の仕事を主としている会社に内定をいただいています。そのため地元鹿児島に貢献できる技術者になれるよう頑張りたいです。

また理事さんから「資格も2級に留まらず1級を取るつもりで勉強をしない」という言葉を聞き、自分の中の考えを改めました。いずれ取ればいいやという甘い考えがあった自分は考えさせられました。

この一年間で勉学に励み、順位や点数を上げるだけでなく自分の力になれる勉強をして役立てる技術者になろうと思えます。

奨学生として採用していただき、大学生時代最後の一年を充実した学生生活を送ることが出来ると幸いです。

奨学金は生活費と卒業研究の資料、卒業設計用の材料、進学の費用及び交流活動の費用等として使わせていただきました。この一年間の応援で、両親の負担を減らせることになり、バイトの時間を減らし生活に悩みがなく、より研究や勉強に専念することができました。また、色々なイベントに参加する事も出来て、大変うれしくありがとうございます。私は建築学科の4年生で環境設備系の研究室に入りました。現在、アジア諸国の将来気象データの開発と建築・設備システムの気候変動対策(地球温暖化対策)への応用というテーマについて研究しています。アジアのメガシティでは経済発展に伴い、温室効果ガス排出の更なる増加が予想されており、建築・設備の気候変動対策が急務です。近年地球温暖化の影響を受け、アジアだけではなく世界各国で気温が上昇する事が確認されています。外気温が上昇することで建物内の室内温度も上昇します。屋内温度が上昇している状態で十分な換気が得られなかったり、湿度が高い状態が続いたりすると屋内で熱中症にかかるリスクも高くなります。そのような危険な状況が発生しない為気候変動対策を検討する必要があります。気候変動対策とは温室効果ガス排出を抑制する対策(緩和策)と、気候変動の影響による被害を軽減・回避する対策(適応策)のことで

す。私の研究は全地球気候モデルに基づく未来の気候変動シナリオを統計的にダウンスケールし観測データと合成することでアジアの主要都市の特別将来気象データを新規開発します。さらにアジア諸国の気候変動が建築・設備システムに及ぼす影響を評価し、気候変動に適応可能な建築・設備システムの提案を試みます。また、将来気象データを開発するために、現在地球温暖化予情報第8巻(GWP8)のA1シナリオを用います。さらに、

鹿児島大学大学院に進学し地球温暖化予情報第8巻(GWP8)のA2シナリオを用いて、もっと確実的な特別将来気象データを作成したいと思っています。

また他の交流活動にも参加したくさんの人と出会い、異文化コミュニケーションができて、いい体験になると思います。特に休みの期間を利用してまた別の国への留学も考えております。これからがんばりたいと思います。

研究助成金進捗状況報告会

27年度、二カ年にわたる研究について助成支援するとして決定した鹿児島大学の四件の研究テーマの進捗状況と、最終年度の助成金額を決定する為の報告会を4月27日開催しました。

各研究テーマの代表者から報告があり、研究も順調に経過しているとの報告がなされました。出席した役員からは「申請計画どおり、いずれの研究も順調な成果が期待できそうである。」と好評でした。

財団創立二十五周年事業が開催

平成3年9月創立された当財団は、今年度25周年を迎えたことから記念行事として講演会、祝賀会を9月10日開催しました。講演会は「薩摩スチューデント西への著者林望先生を県産業会館にお迎えし、開催されました。会場には200名を超えるお客様がお見えにな

り、開明派と攘夷派からなる15名の青年武士達が国禁を犯して渡英し、始めてみた「世界」について史実に基



づく約2時間に及ぶ講演に、熱心に耳を傾けておられました。「すばらしい事業をされている財団に敬意を表し、これからこのような事業を是非続けてほしい。」薩摩スチューデントがどのように学んでいったか、史実に基づいて解説して頂き勉強になった。」など感想が寄せられました。

2年後のNHKの大河ドラマ「西郷どん」が放映されることについて、「日本の近代化に大きく貢献することになった

「薩摩スチューデント」こそもっと取り上げられるべき」と先生の熱弁には、会場から大きな賛同の拍手がおこりました。会場をサンロイヤルに移しての祝賀会では、財団役員や関係者の方々等多数のご来賓をお迎えして開催されました。祝賀会は財団基金の原資を造成された米盛庄太郎、シゲご夫妻の映像を



背景に、庄一郎新理事長から財団のこれまでのあゆみが紹介され、今後も創立当時の理念を忘れることなく郷土鹿児島島の発展に貢献していくとの力強い挨拶に始まりました。

御来賓の三島村大山村長、鹿児島工業高等専門学校丁子校長の祝辞に続き、鹿児島大学前田学長からはこれまでの財団の支援に対し謝辞と感謝状の贈呈がありました。

続いて奨学生終了生の謝辞では、霧島市の建築会社に勤務の村田様、岡山大学大学院に勤務の米山教授から奨学金を活用できたことで活躍の場が広がったとの謝辞がありました。

さらに、創立当時から25年間理事長として尽力された庄司前理事長へは、これまでの功績に対し役員を代表して青木前理事から記念の盾が贈られました。米盛學前評議員の乾杯の御発声で祝宴に移り、新旧役員の方々や関係者の方々へ、財団設立からこれまでの歩みを振り返り、懐かしい話題など和やかに進められました。

また、今年米寿を迎えられた庄司前理事長へは、二人のお孫さんから花束と帽子的プレゼントがあり、大いに相好を崩される場面もあり、上原評議員の音頭で、財団の益々の発展を記念しての万歳三唱でお開きとなりました。



鹿児島高専港湾現地見学会の実施

10月24日、今年も鹿児島港安全協議会の御支援を頂き、国交省鹿児島港湾・空港整備事務所及び鹿児島地域振興局発注の工事箇所を環境技術デザイン工学科3年生35名を案内しました。この事業は建設産業への関心、港湾工事への理解を深めてもらうことを目的に実施したものです。学生からは

「机上の学習とは異なり、理解がより深まる。」
「港の重要性が理解できた。」
「外海と湾内のブロックの違いに驚いた。」
「将来を考える良い機会になった。」
等の感想が寄せられました。



県内高校生へ図書贈呈

偉人の顕彰事業は、次代を担う若者に先人たちの足跡を著した書に触れ、何事にもチャレンジする気概をもって成長して欲しいとの思いから、本県高校生生徒諸君へ図書の寄贈を行いました。贈呈した本は、原口泉著「維新経済のヒロイン広岡浅子の『九転十起』」です。N

HKの朝ドラ「あさが来た」の中で一躍脚光を浴びた大阪商工会議所初代会頭の五代友厚や明治初期の激動の時代に遅くも人を生を拓いていった女性達が紹介されています。この本



が一人でも多くの県立高校生諸君の目に留まり、グローバル社会に育っていく糧となることを願い、11月10日、県教育長室で贈呈式があり、古川教育長からは「昨年引続き図書をいただきありがとうございます。先人に学び、夢の実現に向けて大きく羽ばたく人材に育成できるように、活用したい」と感謝の言葉をいただきました。

◎事務局から財団奨学生終了生の皆様へ
*「設立25年のあゆみ」を発行しました。
ご希望の終了生には無償で提供しますので、はがき、電話等で事務局へお申し込みください。



*終了生からの近況報告等がほとんど無く、事務局としては寂しい限りです。後輩達へのアドバイスや先輩方の職場での体験等どしどしお寄せください。
*終了者で住所の変更等ありましたら、必ず御連絡下さい。

〒890-0014

鹿児島市草牟田二丁目二一七

公益財団法人 米盛誠心育成会事務局

神田・水元

☎(099) 226-0205

FAX(099) 224-1562

E-mail kanda@yoneg-net.co.jp